

寸言

株式会社サンテック
代表取締役
清水 睦視



モノづくりはヒトづくりから

このたびSJAC会員に入会させて頂く運びとなり、ご支援賜りました皆様には改めて御礼申し上げます。当社は、1968年に神奈川県川崎市で導波管を製造する会社として創業し、1988年に現在の社名である「株式会社サンテック」に改めました。1977年に設備投資として最新のマシニングセンターを導入後、40年以上金属加工にも力を入れ、「最新マシン×匠の加工者」の融合を目指して少量多品種の生産体制で事業を拡大してまいりました。当社の強みはミクロンオーダーの高精度部品の製作や難削材といわれるインコネイル・チタン・ハステロイ・マグネシウム・CCMの加工、CFRP等の新素材加工にも高精度で対応できること、マイクロ波通信用導波管に使用する難易度の高い銀ロウのロウ付け技術を有していることです。

現在は当社の強みを生かした金属加工と導波管の製造が事業の柱となっており、金属加工では惑星探査衛星に使われているイオンエンジンプレートや衛星に搭載されている光学機器を打ち上げる際の振動から守るショックアブソーバーなどの宇宙開発分野における製造をはじめ、防衛装備や航空機器、半導体製造装置など多岐にわたる分野で弊社の製品を使っていたいております。

創業から50年以上が過ぎ、様々な加工設備の導入や第二工場（山形県新庄市）の開設など何度かの転換期がございました。しかし当社として、この宇宙開発分野においての一番の転換期は、2014年12月3日に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」のイオンエンジンプレートの制作を担当させていただいた

ことでした。当社が培ってきた技術を発揮する絶好のチャンスであるとともに、絶対に失敗が許されない一度だけのチャレンジにプレッシャーで押しつぶされそうだったことが思い出されます。生産技術の知識がある方ならば、「こうすればできる」という仮説がすぐにできるでしょう。しかし、実際には200kgのアルミニウム合金から複雑な形状をした4.5kgのパーツを5ミクロン以内の精度で削り出すという作業はなかなか仮説通りにはうまくいかず、想像以上に難易度の高い作業でした。2か月間ほとんど機械の横に寝泊まりしながら試行錯誤した日々は、私にとってはもちろん、社員にとっても機械加工業界の憧れの分野で今まで培った技術を発揮し、さらに磨き、次のステップを目指すことができた非常に貴重な経験でした。

職人の高齢化や後継者問題、マシンの老朽化など現在、様々な理由で、ものづくり企業は年々減少しています。弊社では多くの職人や事業の受け皿になると同時に、若い世代にももっとこの業界について知ってもらいたいと思い、山形の工場で高校生への見学会を開催するなど様々な取り組みを行っています。その中から1人でもこの業界の未来を担う若者が育ってくれば嬉しい限りです。航空宇宙産業発展のため、新しい技術への挑戦やそれを実現するための努力を続けるとともに、次の世代へ航空宇宙産業そしてものづくりの面白さを継承していく所存です。

新参者ではありますが、業界発展の為、尽力したいと考えておりますので、今後ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。